浮羽町域の小・中学校のあり方について

～魅力ある教育環境のための新しい学校づくり～

うきは市教育委員会

～これまでの経緯～

うきは市立小・中学校あり方検討委員会の設置

うきは市の小・中学校・・・小学校7校、中学校2校
・今後さらに進む児童生徒数の減少
・学校施設の老朽化
→全市的な視点から、将来にわたって持続可能な学校教育環境を整えていくことが重要
→令和6年12月に「うきは市立小・中学校のあり方検討委員会」を設置
→令和7年1月から「浮羽町域の小・中学校のあり方」について検討委員会を開催

うきは市立小・中学校あり方検討委員会を開催

・令和7年1月～7月

第1回～第6回
うきは市立小・中学校のあり方検討委員会（浮羽町域）

・令和7年5月

先進校視察（香春町立香春思永館）

・令和7年5月～6月

うきは市立小・中学校のあり方検討委員会（浮羽町域）専門部会
（3部会：保護者部会、地域部会、教育部会）

１ 学校規模等の現状及び課題

（１）浮羽町域の小・中学校の現状

浮羽町域小学校 児童数推移(1)　R7.5.1 現在

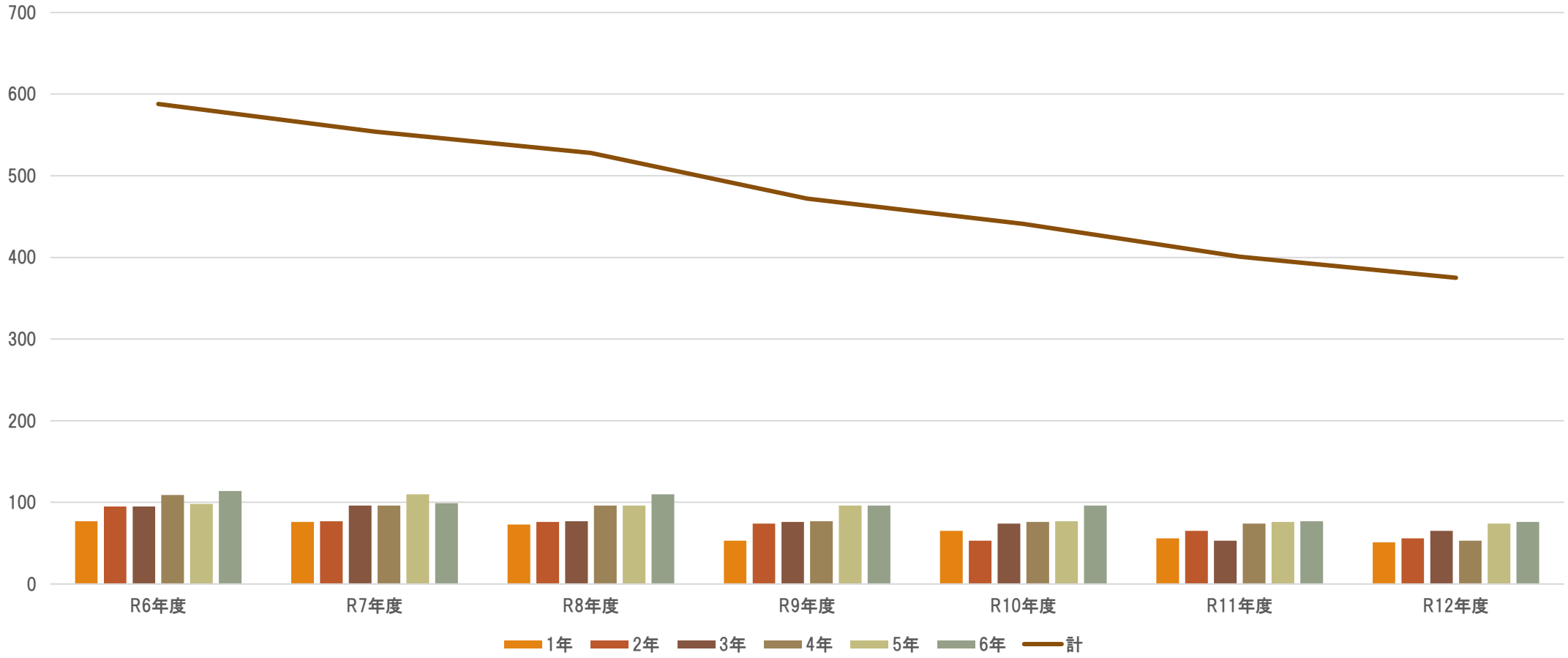
浮羽町域の児童数推移の合計は、5年間で168人の減少、令和7年度の約70%と推定される。

単位：人

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
1年	79	74	62	68	58	50
2年	80	79	74	62	68	58
3年	94	80	79	74	62	68
4年	96	94	80	79	74	62
5年	110	96	94	80	79	74
6年	100	110	96	94	80	79
計	559	533	485	457	421	391

浮羽町域小学校 児童数推移(2)　R7.5.1 現在

令和9年度から全学年ともに100人を切り、全体の児童数は、毎年、減少傾向と推定される。



浮羽中学校 生徒数推移(1)

R7.5.1現在

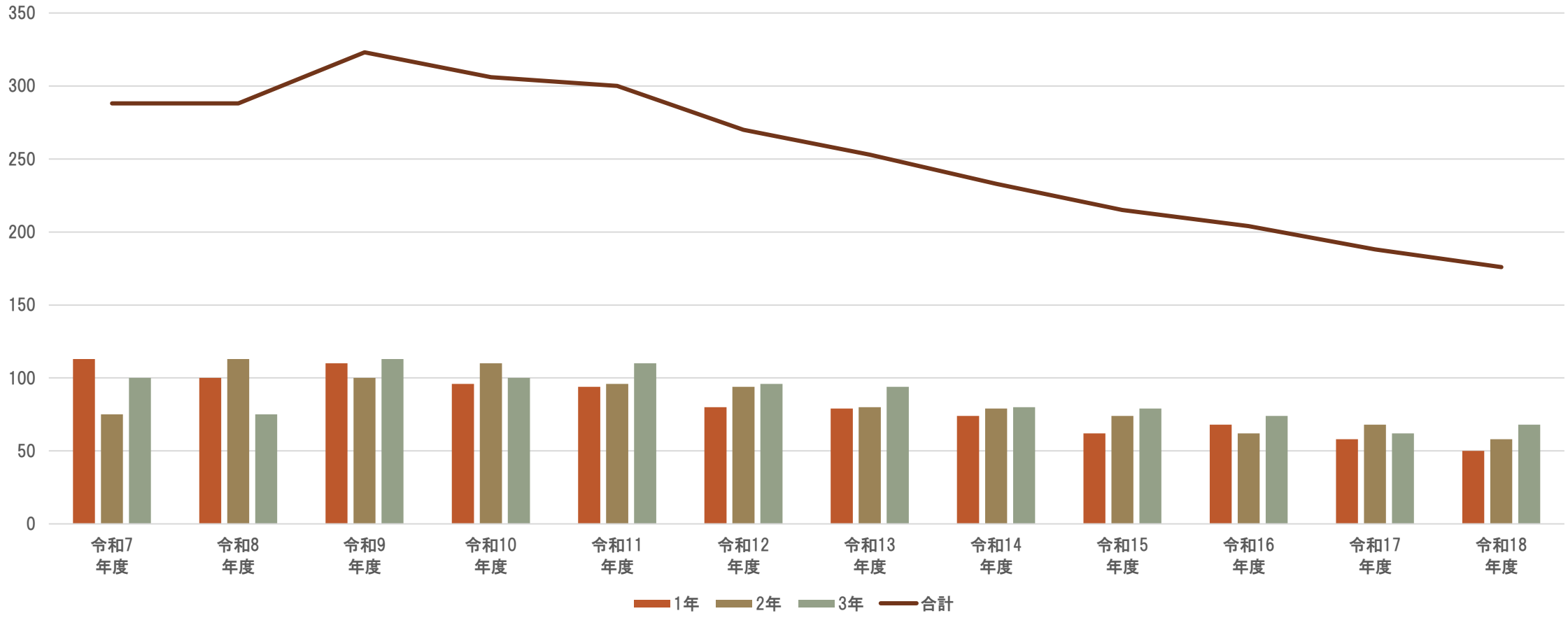
単位：人

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	令和18年度
1年	113	100	110	96	94	80	79	74	62	68	58	50
2年	75	113	100	110	96	94	80	79	74	62	68	58
3年	100	75	113	100	110	96	94	80	79	74	62	68
合計	288	288	323	306	300	270	253	233	215	204	188	176

浮羽中学校 生徒数推移(2)

R7.5.1 現在

令和17年度は、全体の生徒数が200人を下回ると推定される。



うきは市における将来人口推計（独自推計）

都道府県	市区町村	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年
福岡県 (0～14歳)		667,107	624,547	576,964	548,624	539,775	528,083	506,458
福岡県	うきは市 (0～14歳)	3,475	2,962	2,405	2,078	1,871	1,710	1,548
	0～14歳の指数 ※1	100	85.2	69.2	59.8	53.8	49.2	44.5
0～14歳の指数で算定	小・中学生(人) 【全体】	2,313	1,971	1,601	1,383	1,244	1,138	1,029
0～14歳の指数で算定	小・中学生(人) ※2 【浮羽町域】	988	842	684	591	532	486	440

※1：0～14歳人口および指数は令和2(2020)年＝100とした場合

※2：浮羽町域の小・中学生の人数＝(2020年の人数　988人)×(該当年の0～14歳の指数

(「国立社会保障・人口問題研究所」が公表した「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」の人口推計より)

（2） 浮羽町域の小･中学校の施設の現況

① 浮羽中学校

南校舎

北校舎

技術棟

（2） 浮羽町域の小･中学校の施設の現況

② 山春小学校

管理教室棟

給食室

屋内運動場

（2） 浮羽町域の小･中学校の施設の現況

③　大石小学校

管理棟

西特別教室棟

屋内運動場

（2） 浮羽町域の小･中学校の施設の現況

④　御幸小学校

管理棟

南校舎棟

屋内運動場

２　小・中学校再編に関する国の動向

（1）　小・中学校再編について

小・中学校再編（１）

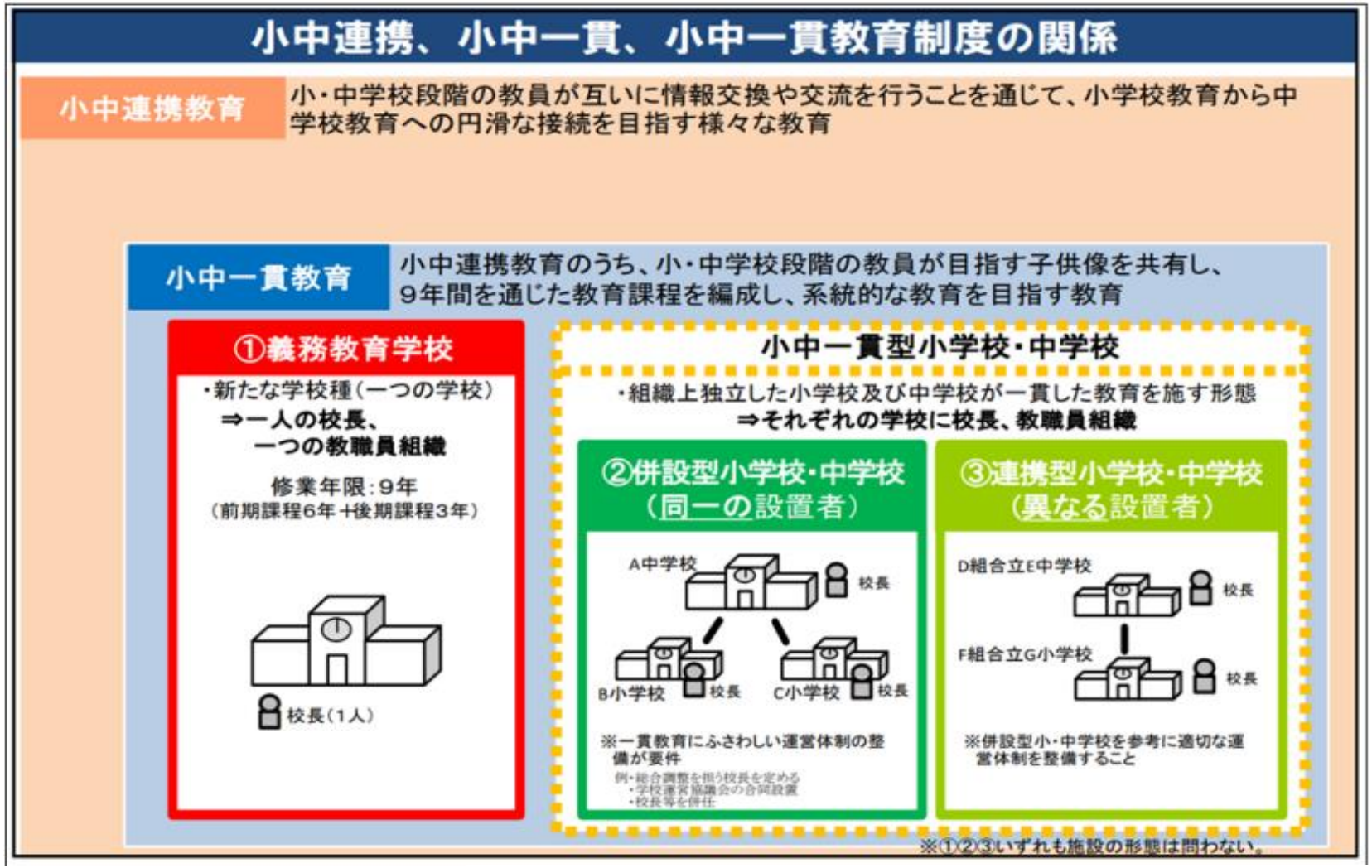
項目	内　容	参考資料
背景	少子化の進行により、学校の小規模化が進行。教育の質の確保や学校運営の効率化が課題となっている。	「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（文部科学省）
基本方針	小・中学校では、一定の集団規模が確保されていることが望ましい。	同上
適正規模の目安	小・中学校ともに12～18学級が標準とされている。 学級を超えた集団編成のため、少なくとも1学年2学級以上あることが望ましい。	同上
通学距離の基準	小学校：片道約4km以内、中学校：約6km以内が目安。 ただし、地域の実情に応じて柔軟に対応。	同上

小・中学校再編（２）

項目	内　容	参考資料
再編の考え方	義務教育の連続性と学習の系統性の確保（※1）、中1ギャップの解消、地域の実情に応じた柔軟な教育の実現などの理由から、「小中一貫校」や「義務教育学校」が推奨されている。	「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」（文部科学省） 「小中連携、一貫教育の推進について」（文部科学省）
支援策	再編や施設の複合化・共用化に対する財政的支援や、計画策定に関する指導・助言を実施。	「令和5年度　学校の適正規模・適正配置及びより良い教育環境の実現に向けた調査報告書」（文部科学省）

※1　分かりやすく、順番に無理なく勉強ができること。

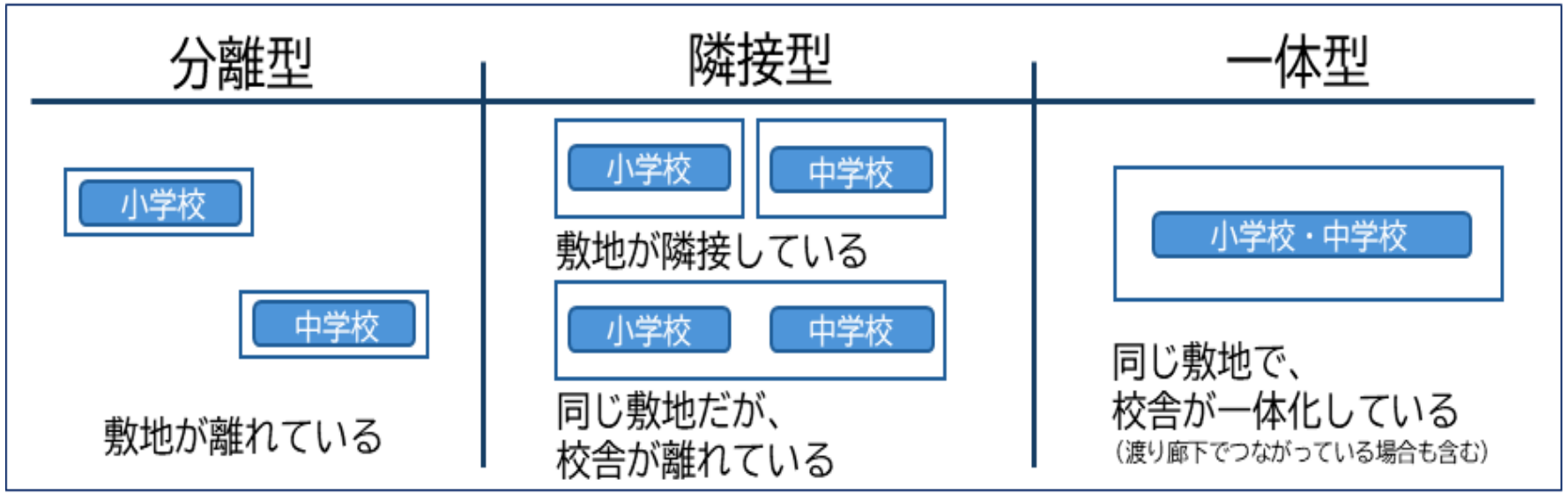
小・中学校再編（3）



文部科学省（小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引）

小中一貫教育を行う施設形態（1）

- 施設分離型：小・中学校の校舎が隣接していない異なる敷地に設置
- 施設隣接型：小・中学校の校舎が隣接敷地又は同一敷地に設置
- 施設一体型：小・中学校の校舎の全部又は一部が一体的に設置



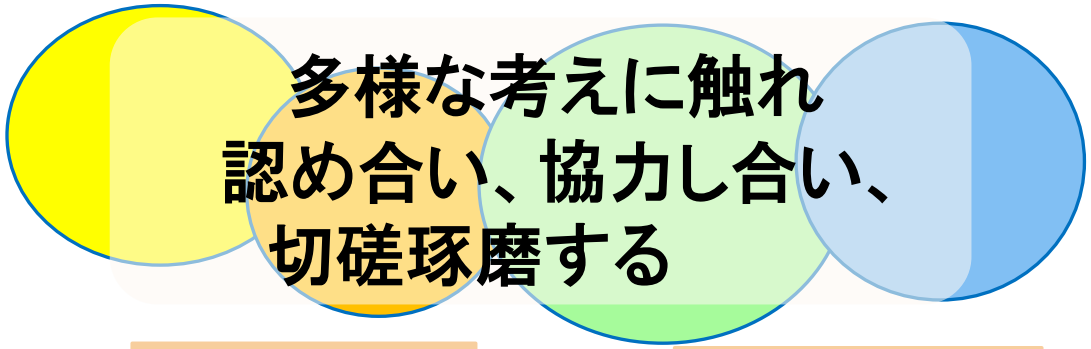
小中一貫教育を行う施設形態（2）

小規模校の課題

価値観や人間
関係の固定化

適正規模の
学校が必要

適正な規模の学校



豊かな
人間関係

社会性
協調性

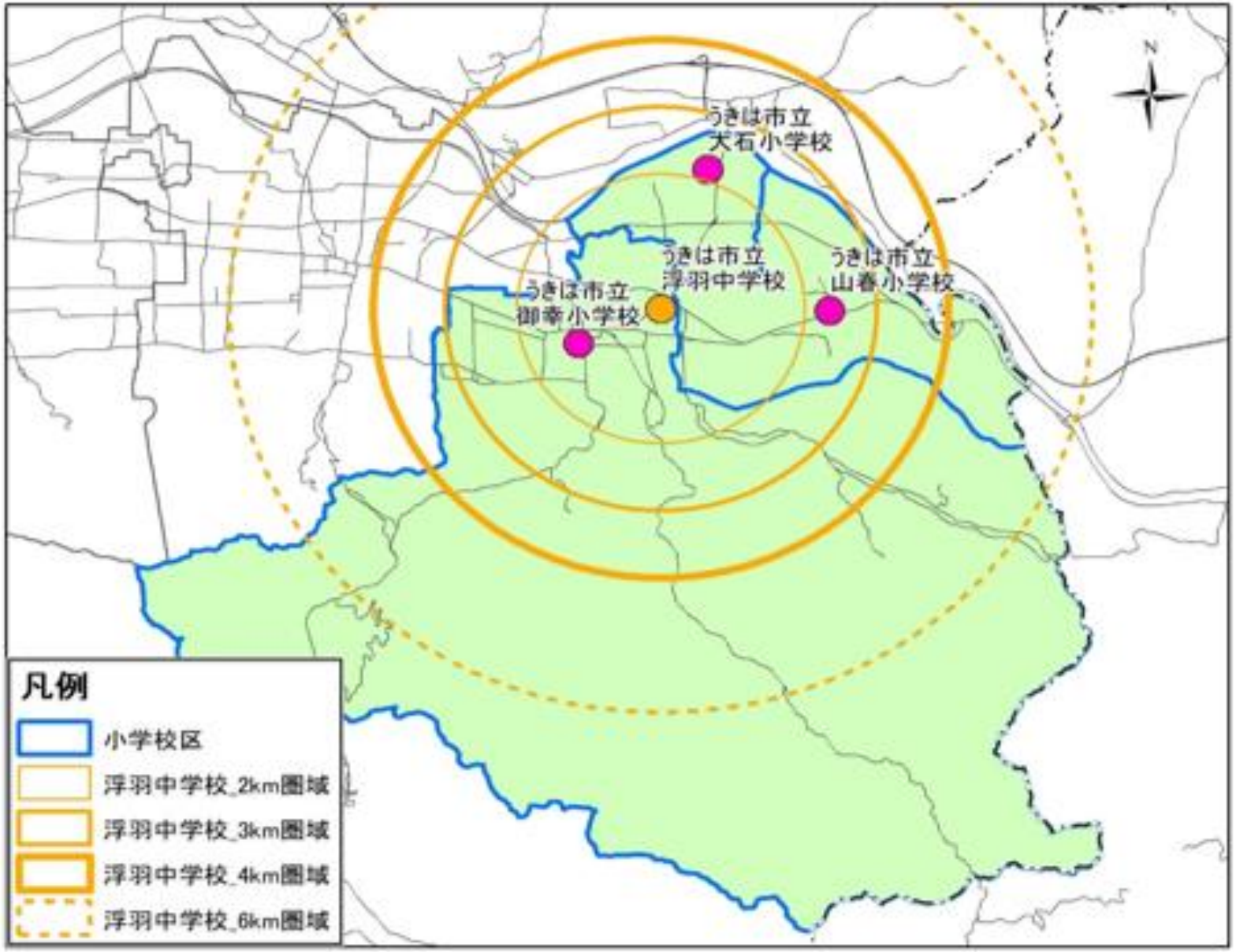
うきは市の未来の子どもたち

３　浮羽町域の学校のあり方について

（１）浮羽町域の小・中学校のあり方についてのパターン

パターン	概　要
案1　施設一体型 （浮羽中敷地内）	浮羽中学校敷地内に小・中学校をまとめた施設の新築。 小学校3校（山春小・大石小・御幸小）をまとめる。
案2　施設一体型 （御幸小付近）	小学校3校（山春小・大石小・御幸小）をまとめる。 御幸小学校付近に中学校を主とした施設の新築。 （小学校3校をまとめることで不足する小学校分の教室等を含めた施設を新築。）
案3　施設分離型 （浮羽中敷地内と 御幸小学校）	浮羽中学校敷地内に小・中学校をまとめた施設を新築。 小学校2校（山春小、大石小）をまとめる。 御幸小学校は現行のままとする。
案4　現行どおり	浮羽中学校敷地内に中学校のみ新築。 小学校は3校とも現行のままとする。

（2） 通学圏域の カバー圏域図



うきは市の子どもたちにとって、魅力ある学校教育環境となるために、学校はどうあるべきか

・より良い教育環境
・質の高い教育

・学校規模の適正化
・浮羽町域の課題解決
・通学距離
・適切な敷地面積

方向性

新しい学校づくり

- 小中一体型が望ましい
- 浮羽中学校敷地内が望ましい

主な意見

- スクールバス等の通学手段
- 学童の整備等
- 小中一貫教育による学力の向上
- 学校と地域の交流促進
- 学校跡地の活用方策
- 義務教育学校と小中一貫校の制度

新しい学校のイメージ図（案）

郷土を愛し、夢や志を持ち、グローバル社会を豊かに生き抜く児童・生徒の育成

【課題】

〇小中学校の児童生徒数の減少と多様な実態への対応

〇小中学校施設・設備の老朽化の改善と維持管理

〇児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境とICT等の教育設備の充実

【基本的な考え方】

〇児童生徒が、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い切磋琢磨することで資質・能力を伸ばす集団の確保

〇中一ギャップ解消のための小学校教育と中学校教育の共有と円滑な接続

〇新しい学校独自の特色ある教育の推進

新しい学校の魅力ある教育

多様な教育的ニーズに対応

教科担任制・指導体制の工夫

ICT教育の推進

9年間の学びの連続性を大切にした教育

- ○ 発達に即して９年間を区分
- ○ ９年間の一貫したカリキュラムに基づく教育
- ○ 児童生徒の異学年交流
  合同・個別の学校行事

家庭・地域と連携した教育の推進

郷土を学ぶ学習充実

外国語教育の充実

ご清聴ありがとうございました